

教育課程部会（第99回（第8期第9回）（平成28年10月26日） における主な意見

議事に従い、事務局より以下の事項につき説明の後、意見交換。

- ・ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について
- ・ 平成29年度文部科学関係概算要求について
- ・ 教職員定数に関する平成29年度概算要求について
- ・ 英語教育に関する平成29年度概算要求等について
- ・ 教育情報化の推進に向けた取組について
- ・ 関係団体からの意見聴取の状況について（これまでの2回の状況）
- ・ 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」への意見募集の結果（概要）について

○ 各団体からの御意見や、パブリックコメントに寄せられた意見を拝見すると、「審議のまとめ」の基本的な方向性については、全体的には特段否定的な意見はないと理解した。多く共通していた言葉として、「条件整備」のことがあった。ここはやはり非常に大きな要だと思う。是非頑張ってください、要求ができるだけかなうように私も応援したいと思っている。

○ 共通の指摘事項として、片仮名用語が多いということがある。私もこれは以前から気になっていた。例えば、「審議のまとめ」の252ページ、外国語のところ、「コミュニケーション」とか「コミュニケーション能力」という文言が出てきて、脚注に、コミュニケーション能力についてどういうふうに考えているかということが非常に明確に定義されている。このようなものを、「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」について、こういう考え方でやっているという補足版を付けると、多くの方に分かりやすいのではないか。

○ 「審議のまとめ」について、おおむね受け入れていただいている。それは大変ありがたいこと。これからは周知をしっかりとしていかなければならないと強く思う。

○ 本日報告を受けて、次期指導要領改訂については、皆さんが期待されるものであるということは間違いなくて、問題はそれをどう実現していくかということだと思う。大きな課題に対して、限られた資源、人、物、金、情報、時間等をいかに効果的、効率的に組み合わせて最善の成果をもたらすかという「マネジメント」の視点をみんなが持たなければいけないと思う。「できない」「大変だ」ではなくて、「どうすればできるか」ということを考えることが重要。また、担い手である教員の力量が一番の

キーポイントだと思うので、育成、研修については、例えば、集中的に先生方の時間をうまくとって、基本的な理解をするというような、一工夫が必要なのだと思う。

- 社会総がかりで実現していく教育改革なので、全てのステークホルダーの方たちがもっと主体的に関わっていくことが必要。ただ残念ながら、関係団体からの意見書を拝見すると、「何々をしてほしい」「何々を講じられたい」「具体的なことを提示されたい」といったようなことが多い。本来、「審議のまとめ」に書いてある水準まで提示をされたら、受け手はもっと責任を持って考えるべきである。だからこそこの機会に、今回の指導要領をうまく実現していくことを通じて、産業界も含めて色々なステークホルダーが変われるようなムーブメントを発信していかなければならないと思う。ステークホルダー自身が、思考力・判断力・表現力等を持たなければならない。ステークホルダー自身が、今回の指導要領に挙げられているいろんなキーワードを、自分のこととしてうまく咀嚼していかなければならない。

- 御報告いただいた様々な御意見のうち、キーワードはやはり「条件整備」という言葉になろうかと思う。「審議のまとめ」の59ページのところから、理念を実現するための必要な方策ということで書き記されている。今後もう少し書き込んでほしいかなと思うが、その観点としては、「審議のまとめ」に記された柱をどういうふうの方略化していくかということが、これから問われてくる場所かと思う。本日概算要求の説明をいただいたので、「審議のまとめ」の記述と重ねて聞いていたのだが、学習指導要領をどういうふうに具体化していくかという、その一端は理解できた。ただ、では、この学習指導要領の理念をどう伝えていくかという方策化までは、なかなか至っていないのかなという感想を持った。そういう中で条件整備の一つとして、私は教員養成と学習指導要領の脈絡というのをもっと接近させて考えていく必要があると思う。

- アクティブ・ラーニングについては、これだけ色々なメディアでも出て、様々なところでも記事が出ているはずなのに、子供が立ち動くことをアクティブ・ラーニングだとおっしゃった先生にめぐり合ったときに、少しがっかりした。何回かそういう先生に出会ったときに、その方たちが言うのは、「保護者が反対する」「良い高校に子供達を入れるということが親から期待されていることである。」ということ。しかし、これから求められていく力、21世紀に生きていく子供たちの力というのがまさに今示されて、これからそういう取組に変わっていくんですよと申し上げるのだけれど、現段階ではちょっと納得できないという方もいらっしゃる。やはり、保護者にもしっかり目指すべき方向性を共有する必要がある。社会教育と学校教育の両方の観点で周知・共有を進めていく必要があり、自分たちの地域でどんな子を育てたいのかということ、地域が話し合うような状況にならなければいけないのだと思う。国に対して、「こうしてほしい」「ああしてほしい」ではなくて、「こうしていきたい」「ああしていきたい」という、みずからの地域の教育に対する言語を共有しなければならない。

- 「審議のまとめ」については、感想が大きく二つに分かれている。現職の先生方は、カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングという「審議のまとめ」の中で提案されている事柄について、一生懸命それを実現していこうという意気込みが感じられて、すばらしいと思った。一方、退職した先生方は、「審議のまとめ」を見て、最初の感想が「長い」という感想で、とても読み切れないということをおっしゃる方が多かった。また、「くどい」という感想もあり、特に第1部が、似たようなことを手を変え品を変え言っているというので、もう少しすっきりとならないのかなという感想を漏らす人がおられた。私としては、「審議のまとめ」は大分分かりやすくなったと思っているが、答申までに更に一工夫お願いできればなという感じはまだ持っている。

- 各関係団体からの意見聴取、あるいはパブリックコメントの御意見については、共通しているところも多いなという印象を持った。例えば資料5-1に沿って見ていくと、片仮名の用語については分かりやすい解説が必要というのはその通りで、できるだけ丁寧な説明はしていただければと思う。二つ目の丸についても、パンフレットの配布や説明会を通じて改訂の理念を分かりやすく周知する必要があるということもそのとおり。実際に指導に当たられる先生方のみならず、家庭の御両親あるいは地域の方々、幅広くこれからの教育の方向性を理解していただくために、分かりやすいものが必要。三つ目の条件整備の重要性についても全く賛成で是非これは文部科学省において御努力いただければと思う。また、審議会としても応援をしていかなければならない。四つ目の丸、外国語教育の充実については大変大きなことで、そのための人の配置や条件整備、授業時数の確保というのは大変重要だと思う。

- 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、3本の柱を中心とした方向性に関しては、各団体、そしてパブリックコメントを含めて、おおむね賛成していただけたのだと感じている。部活動に関して、現在の諸問題というのがかかり出てきているかと思う。運動系を中心として御意見を頂いたのかなと思っているが、大きくは指導者の育成、それに伴って安全な部活動ということで、施設の整備等が必要になってくると感じているが、部活動に関しては、今後、いろいろ考えていかなければならないと思っている。

- 学力調査の結果について、11 ページ目の生活習慣のアンケートで、夜寝る時間が少しずつ全体で早くなっているということで、これは大変好ましい傾向だと思う。生活習慣がしっかりしていることが学習のいい習慣につながり、それが学力向上につながると私は思う。そういう面では、この傾向は大変歓迎すべきことである。質問は、なぜ、調査結果にあるような一定の時間までに寝ようという傾向が増えたのかということ。また、早く寝ることによって、自分の勉強についてどのように良い影響が出ているのかということについての分析や質問等は行っているのか。（→高木学力調査室長

より、ふだん寝る時間を聞いているだけで、なぜそうなっているかということは聞いていない旨回答。) せっかくこういう傾向が出ているのだから、例えば、「なぜ10時までに寝るようにしているんですか」といったことや、「その結果、頭がすっきりして勉強が進みますか」というようなことを質問していくと、より意味のあるものになるのではないか。例えば、スマホをいじるのを夜はやめるようにしているとか、何かあるかもしれないし、早寝早起き朝御飯運動というのを国や社会を挙げて今やっているの、それが随分効果を上げているのだろうと思うが、この辺りのことを、是非フォローしていただきたいと思う。

○ 全体については、やはりこれからどう理解され、実践に移されていくかということが大きいし、教員の資質の向上が大きいと思う。幼児教育の立場から話させていただくと、これからの小学校との連携や学校教育の一環ということで、今回の改革はすごく大きな波で受けているように思う。では具体的にどういうふうに幼・小というところを結んでいくのかということを探しているわけであるが、ただ、今日御報告いただいた様々な資料等を拝見すると、あまり指摘がなかったようにお見受けし、つまり問題がなかったということだとは思いますが、幼児教育についてはあまり関心が持てないのだなというようなことを思って受け止めていた。教育課程部会では、幼児教育が学校教育の始まりになっていることをいろいろな先生のお立場からお話しいただいて、今回もそういう意味では、幼児教育のページも前回よりは相当厚く語られているが、一般の方々や関係機関においてはなかなか理解できないということは、これからが大事なかなと思っている。より深く、幼児の生活から学校教育が始まっていることを意識してもらおう、そのことが大事かと思う。

○ 今回の改訂において、アクティブ・ラーニングということが一つの柱として捉えられているが、現実的には、かなり厳しいなという感じがする。小学校はアクティブ・ラーニング的なことをやっても、現状では中・高のように学習内容が高度化されると、やはり教師主体の授業がほとんどと言って間違いないのではなか。トランジションの期間に、どのように授業を変えていくのかということを理解していただかないと、ソフトランディングできないと思う。アクティブ・ラーニングについて比較的理解している先生の中にも、これまでの指導法を否定されたと思っている方がいたり、あるいは、生徒の将来を考えて、変えることが怖いと考えている人がいらっしゃるの、こういう先生方に心を開いていただくためにも、アクティブ・ラーニングの有効性を科学的に証明するデータも示しながら研修していくというようなことが重要。そして、管理職に最初に研修することが非常に重要。色々な改訂のポイントがあって、それぞれの点をどうやって結び付けるかというのは、やはり地域のニーズや生徒のニーズに合わせて管理職が考えることだと思う。「これでいいんだ」「これでいくんだ」ということを先生方に管理職が伝えるところからスタートしないといけないと思う。管理職研修には綿密な計画を立てて欲しい。

- 全てがこれからだと思っている。この厚い中身をどう具体化するかということは、英知を集めてやっていかなければいけないと思う。

- 小学校の英語教育に掛かる時間増については、教育委員会がある程度イニシアチブを取っていく必要があるということ強く感じた。各学校任せになると、温度差が出てしまったりするし、本来の当初の目的が達成されない可能性もあるので、これは私自身、教育委員会の立場からも、また教育長としても積極的に関わっていかなければならないと思う。今後、新たな手だてを考える上で、事務局から御説明があった先進的な取組や、市町村あるいは都道府県等々の取組について、課題と成果というものを一歩踏み込んでお知らせいただくと、教育委員会としてもより具体的な対応を図ることができると思う。それからもう一つ、説明のあった計画的な教職員定数の改善については、是非進めていただきたい。

(以上)